入試形態と入学後の学業成績・大学生活の関係
── H大学の事例を参考に ──

大膳　司（広島大学・高等教育研究開発センター）
岩田 光晴（広島大学・入学センター）

1990年代、大学の急激な大衆化が進み、多様化した志願者に対応するため、従来の筆記による学力試験だけでなく、自己推薦書、面接、小論文など多様な選抜基準を用いた入学者選抜試験（以下、入試という）が増加し始めた。その結果、「大学教育を受ける学力は大丈夫なのか」や「期待したように積極的に大学生活を送っているのか」など、多様な選抜基準による入試の入学者に対して、追跡調査などの入学後の結果情報を求める声も出始めた。

本研究では、H大学を対象として、平成 14 年度入試から導入されたＡＯ入試を中心として、入学者選抜方法別に、平成15年度入学生の入学後の学業成績のみならず、活動的側面も含めた入学生の生活状況を追跡した結果に基づいて、多様な選抜基準による入試の可能性と課題を探っていきたい。

1. H大学の入試方法

H大学の平成15年度入学者選抜方法は、主に、①一般選抜〔前期日程〕、②一般選抜〔後期日程〕、③推薦入学、④アドミッション・オフィス方式選抜（ＡＯ入試）の４つに分けられる。H大学は，主要な学際領域を網羅した10学部を有し、各学部では50を超える多彩な学科・類やコース（プログラム）等を設置している。そして，募集の教育組織は37ヶ所あり、それぞれの教育目標に基づいて独自の入学者選抜方法を検討・実施している。各学部の入学者選抜に共通していることは、大学で学ぶための「基礎学力」を重視する一方で、「入学動機と意欲が高い人」や「専門性に優れている人」などの多様な視点でも人材を評価していることである。また、社会人（社会人特別選抜）から高齢者（フェニックス入学制度）まで幅広い年齢層を対象にした、個々のキャリアと入学意欲を主体的に評価する選抜も行っている。

一般選抜はH大学の募集人員全体の約85％を占め、大学入試センター試験と個別学力検査の総合点による判定を行う前期日程と後期日程を設けている。ただし、個別学力検査の内容は、科目試験を行う前期日程と異なり、後期日程では主に面接・小論文を課しているケースが多い。

残りの約15％は，推薦入学と平成14年度導入のＡＯ入試で選抜を行い、いずれかの選抜方法をほとんどの募集教育組織で実施している。選抜内容は募集教育組織ごとに異なり、志望理由書などの各提出書類、面接、小論文、実技、課題レポートなどの方法で多様な人材を受け入れる選抜方法として位置づけ、特にＡＯ入試では面接を通して志願者のコミュニケーション力を評価している。H大学への入学を第一希望とし、大学で学ぶための基礎学力と入学動機や目的などの意欲的側面や、アドミッションポリシーで提示した「求める学生像」に適した人材であるかを確かめる選抜を行っている。また，一部の募集教育組織では大学入試センター試験を課し、各提出書類や小論文・面接等を含めた総合的な評価で選抜で行っている。その理由は、卒業後の進路先において求められる能力や国家試験等の資格試験合格には、幅広い科目の学力が必要と判断しているからである。

それぞれの入試方法の選抜基準を示したのが表１である。基礎学力の確認は全て選抜方法において共通している。

表１　入試方法の選抜基準

入学者選抜方法	基礎学力	意欲・入学の動機	センス・専門性
一般選抜（前期日程）	◎	△	△
一般選抜（後期日程）	◎	△	△
推薦入学	○	◎	○
ＡＯ入試	○	◎	◎

＊　上記表は、各募集単位の選抜の評価に関して、
◎：全て重視、○：概ね重視、△：一部が重視

2. 入試方法別の学業成績

本節では、入試方法別に学業成績がどの程度異なっているか探るため、H大学平成15年度入学者1年生の教養的教育前期の学業成績を入学方法別に調べてみた。

2.1 学業成績の計算方法

2.1.1 H大学の学業成績

H大学での学士課程教育は、教養的教育と専門的教育に分かれている。教養的教育科目は全学責任体制で提供されており、専門的教育科目は入学した学科・コース等で提供されている。学業成績は、どの科目でも、最終的には優・良・可・不可・欠席の5種類の評点で付けられる。なお、欠席とは、最終試験を欠席したことを示している。

2.1.2 学業成績評価指標

学業成績を評価するため3種類の指標を設定した。

1つは、学業成績中の「優」の占める比率の高低によって学業成績の善し悪しをみる指標として、**「優取得率」**を設定した。全取得単位に対する優をとった単位の比率である。

2つめは、学業成績中で「不可」の占める比率の高低によって学業成績の善し悪しをみる指標として、**「不可取得率」**を設定した。全取得単位に対する不可をとった単位の比率である。

3つめは、取得単位の平均得点として「GPA（取得単位平均値）」を設定した。優・良・可・不可をそれぞれ、3点、2点、1点、0点とし、取得単位の平均得点を計算した。

2.2 入試方法別の学業成績

2.2.1 入学者全体の分析

H大学の入学者全体で入学者選抜方法別の教養的教育1年次前期の学業成績を示したのが図1である。

「優取得率」については、センター試験を課す推薦入学による入学者が62.1%で最も高く、センター試験を課さないAO入試が50.4%で最も低くなっていた。しかし、統計的に有意な差があるとはいえなかった。「不可取得率」については、センター試験を課す推薦入学による入学者が1.7%で最も低く、社会人特別選抜による入学者が14.9%で最も高くなっていた。統計的に危険率5％で有意な差が確認された。「GPA」については、センター試験を課す推薦入学による入学者が2.5点で最も高く、社会人特別選抜による入学者が2.0点で最も低くなっていた。統計的に危険率5％で有意な差が確認された。2番目にGPAが低いのは、センター試験を課さないAO入試による入学者の2.2点であった。センター試験を課す推薦入学による入学者のGPAと統計的に危険率5％で有意な差が確認された。

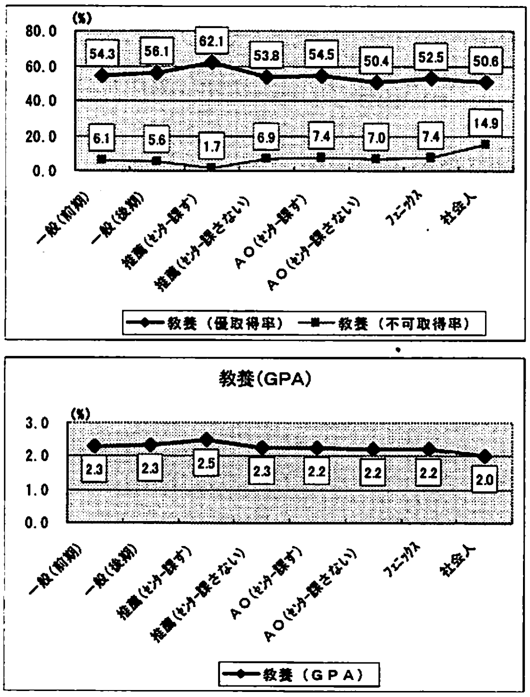

図1　入学者選抜方法別の学業成績

以上、「GPA」など学業成績指標によっては、入学者選抜方法によって有意な差が確認された。しかし、選抜対象者が社会人、専門高校・総合学科卒業生、高齢者など、高校新卒者とは異なった属性をもった入学生であったり、同じ入学者選抜方法であっても入試単位ごとに採用されている学力検査科目は異なっていることなど、大学全体で入学者選抜方法による学業成績の違いを比較することに無理がありそうである。そこで、同じ基準で学生を選抜している入試単位ごとに同様の分析を行ってみた。

2.2.2 入試単位別の分析

そこで、入試単位ごとで、高校新卒者を対象とする入学者選抜方法だけを対象として、入学者選抜方法別の教養的教育１年次前期の成績を検討した。

まず、「センター試験を課す推薦入学」を実施している専攻は、H大学では２つの学科でのみ実施されており、そのうち、文学部人文学科の例を示したのが表２である。入学者選抜方法別に、どの学業成績評価指標にも危険率５％において有意な差は確認されなかった。

表２　入学者選抜方法別の学業成績
（文学部人文学科）

	一般（前期）	一般（後期）	推薦（センター課す）
教養（優取得率）	69.7	69.5	71.3
教養（不可取得率）	3.1	2.5	0.6
教養（GPA）	2.6	2.6	2.6

続いて、「センター試験を課さない推薦入学」を課している専攻については、H大学では15の入試単位で実施されており、そのうち、工学部第４類について計算した結果が表３である。どの学業成績評価指標にも危険率５％において有意な差がなかった。

表３　入学者選抜方法別の学業成績
（工学部第４類）

	一般（前期）	一般（後期）	推薦（センター課さない）
教養（優取得率）	51.7	55.1	57.4
教養（不可取得率）	4.8	5.2	3.4
教養（GPA）	2.3	2.3	2.4

続いて、「センター試験を課すＡＯ入試」を課している専攻については、H大学では５つの入試単位で実施されており、そのうち、初等教育教員養成コースの例を示したのが表４である。入学者選抜方法別に、どの学業成績評価指標にも危険率５％において有意な差はなかった。

最後に、「センター試験を課さないＡＯ入試」を実施している専攻については、H大学では10の入試単位で実施されており、そのうち、総合薬学科の例を示したのが表５である。

入学者選抜方法別に、どの学業成績評価指標においても危険率５％において有意な差はなかった。

表４　入学者選抜方法別の学業成績
（初等教育教員養成コース）

	一般（前期）	一般（後期）	AO（センター課す）
教養（優取得率）	59.5	52.4	70.6
教養（不可取得率）	5.3	6.5	2.2
教養（GPA）	2.4	2.3	2.6

表５　入学者選抜方法別の学業成績
（総合薬学科）

	一般（前期）	一般（後期）	AO（センター課す）
教養（優取得率）	59.5	52.4	70.6
教養（不可取得率）	5.3	6.5	2.2
教養（GPA）	2.4	2.3	2.6

以上、入試単位別に入学者選抜方法ごとの学業成績の差を検定してきたわけであるが、危険率５％において有意な差は確認されなかった。多様な入学者選抜方法の有効性を確認するため、在学生を評価する際に、学業成績のみではなく、その他の多様な評価基準を用意して評価してみる必要があると思われる。

そこで、３節では、入試方法別に入学後の大学生活の状況を検討した。

3. 入試方法別の大学生活状況

ここでの報告内容は、H15年度入試で入学したH大学で１年次生を対象に実施した「入学前から入学後の活動状況に関する調査」の一部である。

調査は、平成16年１月下旬から２月上旬に行われた授業前後に配布し、回収BOXに投函するか授業担当教員が回収する方法で行った。合計1470名の配布を行い、523名の有効回答を回収した（回収率35.6%）。

調査内容は、高校時代と大学入学後の状況比較や学生生活の状況を確認したものである。なお、入学後の追跡調査として、学業成績以外の視点での評価を試みたものであり、①学習状

況、②課外活動状況、③入学後の意識、④入試の評価、⑤学生生活の満足度の5つの項目をアンケート用紙への記入方式で確認している。

3.1 学習状況

学習態度と授業理解の2つの側面において、入学者選抜方法別に特徴的な差が確認できた。

「授業の予習･復習や宿題をした」の項目では、高校時代には、どの入試の入学者も予習・復習を行っていた様子が伺える。入学後は、AO入試及び推薦入学者の評価が一般選抜入学者よりも明らかに評価が高くなっている（表6）。

表6　授業の予習・復習や宿題をした

（高校時代）

	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	合計
一般（前期）	122 41.4%	99 33.6%	52 17.6%	22 7.5%	295 100.0%
一般（後期）	31 43.1%	22 30.6%	15 20.8%	4 5.6%	72 100.0%
AO入試	17 40.5%	14 33.3%	5 11.9%	6 14.3%	42 100.0%
推薦入試	46 47.4%	35 36.1%	13 13.4%	3 3.1%	97 100.0%
合計	216 42.7%	170 33.6%	85 16.8%	35 6.9%	506 100.0%

注） n.s.

（入学後）

	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	合計
一般（前期）	20 6.7%	124 41.6%	132 44.3%	22 7.4%	298 100.0%
一般（後期）	8 11.0%	26 35.6%	32 43.8%	7 9.6%	73 100.0%
AO入試	9 20.9%	25 58.1%	7 16.3%	2 4.7%	43 100.0%
推薦入試	18 18.2%	49 49.5%	31 31.3%	1 1.0%	99 100.0%
合計	55 10.7%	224 43.7%	202 39.4%	32 6.2%	513 100.0%

注） $p < 0.001$

また、「教員と積極的にコミュニケーションをした」という項目は、高校時代から、AO入試及び推薦入学者の評価が一般選抜入学者よりも高いが、入学後は、AO入試入学者が他の入試形態入学者よりも評価が高くなっていた。その他に、「授業に出席した」、「図書館で本を借りた」という項目においても、AO入試及び推薦入学者の評価が一般選抜入学者よりも高い傾向が確認できており、AO入試及び推薦入学者の学習態度についての評価は高い事が確認された（結果省略）。

一方、「授業内容は理解できている」という項目に関しては、逆の傾向が見られた（表7）。概ね、高校時代には授業内容を理解できていたのに対し、大学入学後のその評価は低くなっている。特にAO入試入学者の自己評価が低く、一般選抜の後期日程、推薦入学の順で、やや高い評価を行っている。

表7　授業の内容は理解できているか

（高校時代）

	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	合計
一般（前期）	113 38.3%	148 50.2%	24 8.1%	10 3.4%	295 100.0%
一般（後期）	32 45.1%	33 46.5%	5 7.0%	1 1.4%	71 100.0%
AO入試	18 42.9%	21 50.0%	3 7.1%	0 0.0%	42 100.0%
推薦入試	47 48.5%	46 47.4%	3 3.1%	1 1.0%	97 100.0%
合計	210 41.6%	248 49.1%	35 6.9%	12 2.4%	505 100.0%

注） n.s.

（入学後）

	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	合計
一般（前期）	30 10.1%	169 56.9%	88 29.6%	10 3.4%	297 100.0%
一般（後期）	13 18.1%	33 45.8%	23 31.9%	3 4.2%	72 100.0%
AO入試	3 7.0%	15 34.9%	24 55.8%	1 2.3%	43 100.0%
推薦入試	12 12.1%	61 61.6%	25 25.3%	1 1.0%	99 100.0%
合計	58 11.4%	278 54.4%	160 31.3%	15 2.9%	511 100.0%

注） $p < 0.05$

3.2 課外活動状況や社会･地域の関わり

「積極的に、新しいことに挑戦した」という項目において、AO入試と推薦入学者の評価が、一般選抜入学者よりも高い評価の結果となった（表8）。これは、高校時代からも同様の傾向が見られており、行動的側面は入学後も継続されることが予測できる。

さらに、「日々の生活は充実していた」や「常に目標を持って（意識して）行動した」という項目においても同様の傾向となっており、意欲的な側面での差によるものである事が考えられる。

表８　積極的に、新しいことに挑戦した

（高校時代）

	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	合計
一般（前期）	38 13.1%	82 28.2%	145 49.8%	26 8.9%	291 100.0%
一般（後期）	9 12.5%	19 26.4%	36 50.0%	8 11.1%	72 100.0%
AO入試	8 19.0%	17 40.5%	12 28.6%	5 11.9%	42 100.0%
推薦入試	22 23.2%	36 37.9%	31 32.6%	6 6.3%	95 100.0%
合計	77 15.4%	154 30.8%	224 44.8%	45 9.0%	500 100.0%

注）$p < 0.05$

（入学後）

	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	合計
一般（前期）	76 25.6%	123 41.4%	85 28.6%	13 4.4%	297 100.0%
一般（後期）	17 23.3%	36 49.3%	17 23.3%	3 4.1%	73 100.0%
AO入試	16 38.1%	13 31.0%	9 21.4%	4 9.5%	42 100.0%
推薦入試	45 45.9%	32 32.7%	14 14.3%	7 7.1%	98 100.0%
合計	154 30.2%	204 40.0%	125 24.5%	27 5.3%	510 100.0%

注）$p < 0.01$

3.3　入学前から、入学後の意識の変化

入学をする際に決め手となった項目についてみると、「大学の知名度（ブランド）や入学の難易度」の項目では、一般選抜後期日程、前期日程、推薦入学、ＡＯ入試の順で重要度が高く（結果省略）、「大学の教育方針」、「学びたい先生がいること」の項目では、推薦入学、ＡＯ入試の入学者の重要度が、一般選抜よりも高い傾向が見られた（表９）。

表９　大学の教育方針

	重要であった	ある程度重要であった	あまり重要でなかった	重要でなかった	合計
一般（前期）	27 9.2%	99 33.6%	112 38.0%	57 19.3%	295 100.0%
一般（後期）	12 16.9%	19 26.8%	27 38.0%	13 18.3%	71 100.0%
AO入試	11 25.6%	15 34.9%	11 25.6%	6 14.0%	43 100.0%
推薦入試	23 23.2%	46 46.5%	19 19.2%	11 11.1%	99 100.0%
合計	73 14.4%	179 35.2%	169 33.3%	87 17.1%	508 100.0%

注）$p < 0.001$

また、「受験時における入学目的や目標」に関しては、推薦入学、ＡＯ入試の入学者の重要度が、明らかに一般選抜よりも高い傾向が見られ、一般選抜の後期日程の23.6%が入学前には、目的や目標は無かったと回答している（表１０）。

表１０　受験時における入学目的や目標

	具体的にもっていた	何となくあった	入学前には、無かった	合計
一般（前期）	120 41.0%	142 48.5%	31 10.6%	293 100.0%
一般（後期）	24 33.3%	31 43.1%	17 23.6%	72 100.0%
AO入試	28 65.1%	12 27.9%	3 7.0%	43 100.0%
推薦入試	58 58.6%	37 37.4%	4 4.0%	99 100.0%
合計	230 45.4%	222 43.8%	55 10.8%	507 100.0%

注）$p < 0.001$

一方、入学後の状況に関しては、「入学前と現在のＨ大学に対する好感度の変化」の項目で、危険率５％において、ＡＯ入試や推薦入学のほうが一般選抜の入学者よりも、好転している学生が多い（結果省略）。

また、諸活動の能力に関する自己評価では、「リーダーシップの能力がある」、「行動力がある」の項目で、危険率５％において、推薦入学者が、他の選抜方法入学者よりも、やや高い傾向が見られた（結果省略）。

3.4 入試の評価

「入学した学部・学科のアドミッションポリシー（求める入学者像）と実際の教育内は一致していると思うか」という問いに関して、推薦入学や一般選抜入学者の多くは、「一致していない」と回答しているのに対して、ＡＯ入試入学者は「ほぼ一致している」と回答しており、入学時での理解度の差が影響している事がうかがえる（表１１）。

表１１　入学した教育組織のアドミッションポリシーと教育内容の一致状況

	一致している	ほぼ一致している	あまり一致していない	一致していない	合計
一般（前期）	6 2.2%	97 35.1%	57 20.7%	116 42.0%	276 100.0%
一般（後期）	4 6.3%	20 31.3%	14 21.9%	26 40.6%	64 100.0%
AO入試	3 7.0%	27 62.8%	3 7.0%	10 23.3%	43 100.0%
推薦入試	6 6.3%	38 40.0%	9 9.5%	42 44.2%	95 100.0%
合計	19 4.0%	182 38.1%	83 17.4%	194 40.6%	478 100.0%

注）$p < 0.01$

3.5 学生生活の満足度について

「H大学での学生生活は、入学以前に期待していた通りですか」という問いに関しても特徴的な差が見られた（表１２）。ＡＯ入試の多く学生は、期待以上もしくは期待通りという回答を行っているのに対し、推薦入学者や一般選抜入学者はその回答者の度合いは低いことと、「やや期待はずれ」と回答している学生の存在も確認された。

表１２ 学生生活は入学以前に期待していた通りですか

	期待以上に良い	およそ期待どおり	やや期待はずれ	全く期待はずれ	合計
一般（前期）	34 12.4%	149 54.2%	81 29.5%	11 4.0%	275 100.0%
一般（後期）	10 15.9%	33 52.4%	15 23.8%	5 7.9%	63 100.0%
AO入試	13 30.2%	23 53.5%	7 16.3%	0 0.0%	43 100.0%
推薦入試	26 27.1%	40 41.7%	27 28.1%	3 3.1%	96 100.0%
合計	83 17.4%	245 51.4%	130 27.3%	19 4.0%	477 100.0%

注） $p < 0.01$

まとめ

今回は以下の２点が明らかになった。

１つは、入学者選抜方法別の学業成績に有意な違いは確認されなかった。

２つめは、AO入試や推薦入学と一般選抜の入学者の学生生活における主体性の比較において、いくつかの視点で発見があった。より活動的な学生生活を送るためには、入学目的や動機などの意欲的な側面が重要であり、小論文や面接など、それらを確認する仕組みが入学者選抜方法に組み込んでいることは、志願者の入学動機形成に関与していることが確認された。また、新しいことに挑戦するなどの、積極的な学生生活を送る「モチベーション」の形成は、入学前の高校時代の行動特性によるところが大きい。

なお、これまでのAO入試入学者の追跡調査の結果をみても、AO選抜入学者は一般選抜入学者に比べて、学業成績が上回っているか、少なくても同等の成績となっており[1]、本研究の最初の結果と同様である。

しかし、２つ目の結果であるが、入学生の意欲や目的意識の変化を調べた研究成果によれば、より多くの課題に積極的に取り組む意欲があるというAO選抜入学者の特徴は、入学半年後には消失しているということも指摘されており[2]、意欲や関心の面については今後も継続的にチェックしていく必要がありそうである。。

今後の課題として、サンプルの回収率を高め、学部別等の詳細の分析を行っていく必要がある。また、入試方法別だけではなく、文科系や理科系、現役浪人の区分、入学志望度、出身地域などの属性区分別に分析を行い、入学時における状況と入学後の学習や生活状況との関係や、入学後の満足度が高い学生と低い学生の要因を探っていく必要もある。

さらに、教育効果をどのように測定するか、入試方法のみならず、入試過程のどの部分が影響を及ぼしていると仮定するのか等、研究枠組上の問題点を克服するために、２つほど解決すべき課題を指摘しておきたい。

１つは、日本全体の大学生の学力向上という観点から、１大学だけの事例ではなく、多くの大学が同じ枠組みで比較検討すること。

２つめに、追跡調査研究において絶えず指摘される選抜効果を免れていない。不合格者を含めた入試効果研究をどのように設計するかである。

石塚氏も指摘する通り、追跡調査研究は入試研究において重要な位置を占めると同時に、最も困難なものの１つである[3]。いかに困難であろうとも、多様な視点を考慮しつつ、地道に続けていくことが肝要であると考える。

引用文献

１）白川友紀他「筑波大学ＡＣ入試入学者の追跡調査」『大学入試研究ジャーナル』第12号、2002年、25～32頁。
渡辺哲司他「九州大学ＡＯ選抜入学者の学内成績と，学生としての特性に関する中間まとめ」『大学入試研究ジャーナル』第13号、2003年、35～39頁。
２）渡辺哲司「九州大学ＡＯ選抜合格者の特性—入学後半年間の変化—」『大学入試研究ジャーナル』第12号、2002年、33～38頁。
３）石塚智一「追跡研究の多様な視点－渡辺・武谷論文へのコメント－」『大学入試研究ジャーナル』第13号、2003年、40頁。